

### 第3学年 道徳学習指導案

日時 平成28年8月30日(火) 5校時

対象 男子7名 女子7名 計14名

指導者 豊岡 百代子

道徳 Bー(6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。

関連 「いわての復興教育」⑩「ボランティア」

ウ 自他の生命を尊重し、災害発生時及び発生後に他者や地域の安全に役立つことができる。

【主題名】 思いやりの心 Bー(6) 資料名「論語に親しもう」

【ねらい】 思いやりや礼儀などの心の大切さを知り、その教えを日常生活に活かすことで地域社会の一員として他者と助け合って生活しようとする心情を養う。

【防災教育の視点】

本学級の児童は家庭学習の一つである音読で「論語」や「ことわざ」などの音読に取り組んできた。意味は分からなくても、繰り返し読むことで心地よいリズムに親しむことに重点をおいている。

指導では、自分たちが親しんできた「論語」の意味を知ること、日常生活の中に「論語」の教えが生かされていることや、大震災でも人々の行動に表われていることを知る。自分のお気に入りの論語を選ばせた後、地域にポスターやカルタなどにして発信する活動につなげることで、地域社会に活かすことで地域社会の一員として他者と助け合って生活しようとする心情を養う。

【資料】

「いきる かかわる そなえる」低学年用 P42～P43

「声に出して読みたい日本語 論語」 齋藤 孝 著

「こころを育てる子ども論語塾」 安岡 定子 著

【具体の指導と児童の姿】

- ・ 朝の会等で「論語」を音読し、昔の教えは今の私たちと共通することがあることを知る。
- ・ 総合的な学習「小本の良いところを伝えよう」で副読本 p41～p42 を読み、小本と同じように災害から復興し、津波に強いまちづくりをしている奥尻島のことを知り、自分たちのまちをどんなまちにしたいか考え、発信する。
- ・ 「新幹線で」を読み、他者に思いやりをもち、親切にする大切さを学ぶ。
- ・ 「論語」に親しもう 2ー(2) 道徳 (本時)

【本時の展開】

<本時の目標> 「論語」に親しむことで、思いやりや礼儀などの心の大切さを知り、その教えを日常生活に活かすことで地域社会の一員として他者と助け合って生活しようとする心情を育てる。

段階	学習活動	主な発問(・) 予想される児童の反応(○)	指導上の留意点(・)
つかむ	1 これまで音読してきた論語を振り返る。	・ 今まで音読してきた論語にはどんなものがあるでしょう。 ○ 「○○」です。	・ 意味が分からなくても良いことを確認する。 ・ 紙板書を提示する。
	2 副読本を読む。	・ 論語について書かれているところを読みます。 ○ お母さんも同じようなことがあったよ。	・ 「仁」「恕」など ・ 「仁」「恕」の意味を全員に理解させる。 「仁」思いやりの心。礼儀の心。 「恕」他人を自分のことのように思いやり、自分がしてほしいことをする心。

深 め る	3 本時の課題を把握する。		
	「仁」や「怒」があらわれているところをさがそう。		
	4 災害時での「仁」「怒」の行動をグループで見つける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この写真を見て下さい。「仁」や「怒」の行動を写真の中から見つけましょう。</li> <li>・グループで見つけましょう。見つけたら、そこにシールをはりましょう。</li> </ul> <p>仁…ピンク 怒…黄色</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○仁は並んでいるよね。</li> <li>○怒はこのボランティアの人かな。</li> <li>○誰も横入りしてないね。仁かな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小本地区の震災当時の写真を提示する。</li> <li>① 整然と列を作り、支援物資を受け取る様子。</li> <li>② ボランティアが炊き出しをしている様子</li> </ul> <p>・「仁」「怒」の意味を全員が理解しているか確認する。</p>
	5 災害時での「仁」「怒」をみんなで確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、「仁」や「怒」だと思ったのか、説明をしましょう。</li> <li>○自分も大変だけれど、押したり横入りしたりしないで並んでいるからです。</li> <li>○ボランティアの人達が、お世話をしてくれているからです。</li> <li>○静かに待っているからです。</li> <li>○お母さんも同じようなことを話していました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「仁」や「怒」である根拠を自分なりに説明できればよい。</li> <li>・他の児童にも説明させ、考えを共有させる。</li> <li>・ゲストティーチャーの話を聞かせ自分の考えを確認させる。</li> </ul>
	6 災害時での「仁」「怒」ではない行動があることを知り、自分の考えを話す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生は震災の時に、お腹に赤ちゃんがいたので、人をかき分けてお水をさっと取ってしまいました。先生の行動についてどう思いますか。</li> <li>○ひどいと思う。</li> <li>○駄目だけどでも仕方がない。</li> <li>・先生みたいに、「仁」「怒」とは違う行動をしてしまったことはありますか。</li> <li>○早く遊びたくて、横入りしてしまった。</li> <li>○避難訓練の時に、追い越してしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで話し合わせる。</li> <li>・人は誰でも弱さをもっていることを理解させる。</li> <li>・災害時の行動ではなく、日常生活の一場面でも良い。</li> <li>・友達を責めるような雰囲気にならない。</li> </ul>

<p>深める</p>	<p>7 教師の説話を聞いたり,副読本を読んだりして,災害時に「仁」や「恕」の行動ができるようにするために日頃からできそうなことを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも心の中には「仁」「恕」の心がありますが,反対の弱い心もあるはず。でももし,災害が起こったとき「仁」や「恕」の行動ができるようにするためには日頃からどんなことができると思いますか。</li> <li>○並んでいるときに,前の人を押ししたりしないようにする。</li> <li>○靴を揃えたり,電気を消したりする。</li> <li>○人の気持ちを少し考えてみる。</li> <li>○論語を覚えておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の発言がない場合は担任が例を挙げる。</li> <li>・弱さがあっても良いことを抑える。</li> <li>・課題に対するまとめはしないが,児童とのやりとりや板書で位置づけていく。</li> </ul>
<p>まとめる</p>	<p>8 本時の活動を振り返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習で分かったことや,これからできたら良いなと思うことをできるだけ詳しく書きましょう。</li> <li>・書いたことを発表しましょう。</li> <li>○論語には,人を励ましたり助けたりする力があることがわかりました。</li> <li>○いつか津波があつたら,思い出して人を助けられたらいいなあと思います。</li> <li>○誰かに教えてあげて,その人も覚えていて欲しいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを用意する。</li> <li>・友達の考えで良いと思ったことは発表させて,共有を図る。</li> </ul>